

きらり



河北会館での識字教室に参加して



「河北会館」は、西条市北部にある隣保館です。本校PTA人権・同和教育部の者が8月14日（月）の午後1時30分から1時間に渡り「河北会館」を訪問しました。この日はお盆と重なるので中止にしてはという意見もあったのですが、私たちの訪問を快く受け入れてくださいました。PTA3名、教員1名、人権委員の生徒1名が訪問しました。ほかにも小学校の教員1名、大学生2名が参加しました。

河北会館の識字教室は第2、第4月曜日の昼に実施しています。当日は本校の保護者が支援者として、勉強生の支援を行いました。

内容は、共に学ぶ人の名前を書き参加者にわかりやすく伝える練習、歌を題材に歌詞の朗読・書き取り・手話をつけて歌う。七夕、新年会、誕生会などの季節行事を通しての学習。「河北会館」まつりのほか、地域行事での発表、現地学習会などの活動だそうです。

近年「河北会館」とは、「河北会館」まつりの際に、小松高校の生徒が作成したポスターを掲示していただくなど交流が進んでいます。

参加者の感想

私は、この識字教室に支援者としてご縁があり平成26年から参加しています。当初は支援する方だと思っていましたが、勉強生の明るさ、熱心さ、思いやりある人柄との出会いから元気をもらっています。今では、人生のライフワークとしてギブアンドテイクの関係になっています。

今回『きらり』の紙面をお借りして、紹介していただける機会があり大変嬉しく思います。この河北地区は、東予学園や道前育成園などが近くにあるので、大人から子供まで地域のふれあいまつりや人権学習会などを通じた交流が盛んで、互いに理解を深める場になっています。人権文化を大切にできる地域で、とても居心地のよいところです。

識字教室では、参加する施設の職員の方に小松高校の卒業生もおおり、よく頑張っている姿を拝見してさらに嬉しくなりました。

『識字教室』って何だろう。聞き覚えのない言葉に戸惑いました。初めて教室に出向きましたが、自分は何ができるのか不安が先に立ちました。「こんにちは」と元気な声とともに男の子が明るく入ってきました。生き生きとした顔で自分の席に座りました。本当に皆ニコニコしてこの教室に来られることが嬉しそうでした。私は、自己肯定感を持っていることが素晴らしいと嬉しく思い、心が温かくなりました。

この日は、昭和30年に起きた紫雲丸事故のDVDを鑑賞しました。

事故の知らせを受け、現場に向かう間の保護者の胸の内は計り知れないものがあったと思います。子どもたちの半数近くが亡くなった事故でした。生き残った生徒も、心に大きな傷を負ったようでした。

一人ひとりにはかけがえのない命があります。もし命を落としてしまうと、そこからは何もできなくなります。理不尽なことで命を落とすことは、言葉にできないほど辛く悔しいことだと思います。このDVDを見て、命を大切にすること、命の尊さについて改めて考えさせられました。

※ 紫雲丸事故

1955年（昭和30年）5月11日に当時の国鉄の宇高連絡船「紫雲丸」が、高松港を出港後に、貨車運搬船の「第三宇高丸」と濃霧の中で衝突し数分で沈没した。この事故では乗客・乗員の847人のうち修学旅行中の生徒が多く犠牲になった。愛媛県では、現西条市の庄内小学校の生徒29人とPTA会長が犠牲になった。

以下は識字教室に関する河北会館の資料です。

1 勉強会の発足

2004年4月

当時の職員から第3者委員に相談。

相談内容

- ・読む・書く・計算する。
- ・自分の思いを表現できる場。

職員の方の思い

↓

不合理なことがあれば、訴えることができるように。

利用者さんの生活をもっと豊かなものにしたい。

勉強会の内容

初めのあいさつ

- 1 自己紹介と支援者の発表
 - 2 第2月曜日 その月の誕生者がいる場合はその人のためにハッピーバースデーを歌いお祝いする。
 - 3 誕生者の「誕生日発表カード」の発表 その後 その方に質問をしたり、その方の素晴らしいところを発表する。
 - 4 今年度の歌『翼をください』の歌で勉強をしていく。
 - ① 文章を読んでいく。
 - ② 文章を書く。(プリントに)
 - ③ 歌を歌う。
 - ④ 手話の練習。
 - ⑤ 歌を歌いながら、手話をつけていく。
 - 5 その日の感想
- 終わりのあいさつ



西条市人権・同和教育講座に参加して

西条市では、市教育委員会の主催で、西条市人権・同和教育講座を開催しています。5月から10月まで、年間5回実施されている講演会を中心とした啓発事業です。本校のPTA人権・同和教育部会に所属する保護者と教職員が参加しています。今回は本年度の5月から7月までの3回の様子をお知らせいたします。

○ 「差別っていったいなんやねん」を受講して

山口県人権啓発センター川口泰司氏の講演会に参加しました。

部落差別は今でもあるの？教えなければ自然になくなるのでは？と無関心だった私でしたが、今回の講話で多くの事実が見えてきました。

今回の川口さんの講話によると、今でも結婚差別が3人に1人の割合であるということでした。結婚相手が分かれば身元調査をする人が2人に1人、相手が同和地区出身かどうかを気にする人が5人に1人いるとのこと。その場合、3分の2は結婚が成立するとのことですが、3分の1は破談になっているそうです。結婚に至るか破談になるかの大きな違いは、同和教育を受けたか受けなかったにあるそうです。

近年、同和教育を受けていない人はまずネットを使って調べるそうです。ネットは正しい情報だけでなく間違った情報（デマ）も載っています。この同和問題に関するネット情報は、約9割が面白半分で書かれたデマだそうです。この情報を鵜呑みにした親族が結婚に反対するということでした。

実際に、同和地区出身者と交際していた女性が、結婚に反対した祖父の危篤を知らずながら最後を看取らなかったという話もありました。祖父が亡くなった知らせを聞いて、「これで1人差別をする人がいなくなったね」と言ったそうです。私はこの話に大きな悲しみを感じました。こんな世の中でよいのでしょうか。

昨年12月16日に国会で234票のうち220票の賛成で「部落差別解消法」が成立しました。この事実が現在もなお部落差別が残っている証拠だと痛感しました。

最後に同和教育とは、「水に沈んだ泥」を取り除くこととも言われていました。何もしなければ、澄んだ透明の水に見えるが、触れてしまうと黒く濁った水になってしまう。触れても透明であるよう少しずつ泥を取り除いていこうと思いました。

○ 「誇りを胸に」の講演会に参加して

高知県香南市 安井耕三・久保雅裕先生の講演を聞きました。

「部落差別」という言葉がいまだに残っていることに正直驚きました。また、普段から人権や差別問題について関心があると自分では思っていたが、自分の視野の狭さに気づかされた講演でした。

今回のお話は「部落差別」・「結婚差別」を経験され、その体験を全国に伝えて、一人ひとり心の中にある差別意識を変えていきたいと考えている講師によるものでした。講師の方は堂々と人前で自分の体験を語られていました。

もし自分がこの講師の方と同じ立場であったら、あのよう堂々と胸を張ることができるかと疑問に思いました。また同時にそう思う自分の気持ちこそが、すでに差別なのかもしれないとも思いました。自分はしていないつもり差別であっても知らず知らずのうちに差別につながる考えや見方に陥っていたのかもしれないかもしれません。これからはより高い意識をもって、少しでもいいから差別のない世の中を作ることができるようになりたいと思いました。

○ 「ハンセン病問題について」を受講して

愛媛県人権教育協議会 米田孝弘先生の講演会に参加しました。

はじめに西条西中の男子生徒による人権作文の朗読があり、その後に米田先生の話でした。その中で、「ハンセン病元患者は気の毒な人ではなく、差別と闘った人であり命を輝かせた人だ」との説明がありました。平成8年に「らい予防法」が廃止されるまで、ハンセン病元患者の人たちは、隔離され本名も隠すなど人生の全てを奪われてきたそうです。全く人権が認められてこなかったということでした。ハンセン病は感染力が弱くすでに特効薬もあり、治るようになっていたのに隔離が続いたということでした。

今回の話から、正しい知識を身に付けることが人権を守る上で大切なことだと感じました。

米田先生の話された大島青松園には、西条出身の方も入所されていて、近年何十年ぶりに故郷に帰られたそうです。そこで彼は、米田先生に「ハンセン病にかかりつらいこともあったが、おかげで多くの優しい人に出会えた」と話されたそうです。この言葉は、彼らがハンセン病と向き合い闘ったからこそ発せられた言葉だと感じました。

※ らい予防法

1953年に施行された法律で、1996年に廃止されました。この「らい」という言葉は差別と偏見を込めた言葉であり、学習の場でのみ用いられる言葉であることに御留意下さい。現在は、菌を発見したノルウェーの医学者のハンセンの名前をとってハンセン病といわれます。この病は1943年に開発されたプロミンという特効により完治する病気で、遺伝病ではないことと感染力が極めて弱いことも分かっています。

全国にあるハンセン病療養施設



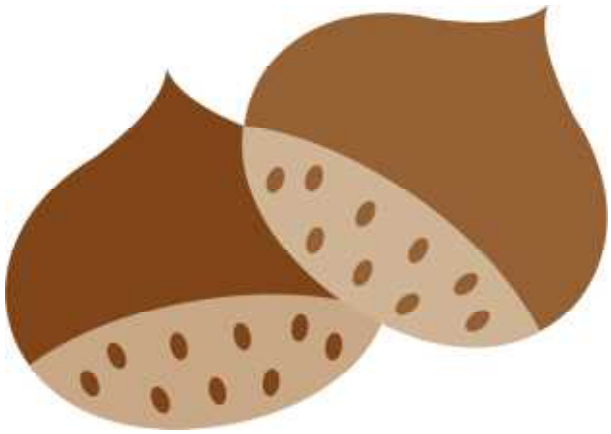
ハンセン病問題を考えるフォーラムに参加して

8月26日(土)に上記の会が西条市総合文化会館で実施されました。はじめに西条市のプロジェクト2008の方々の報告や市内の小中学生の合唱が行われました。続いて、大島青松園の入所者3名の方と愛媛県人権教育協議会の米田孝弘先生の対談が行われました。これまでの苦しかった園内での生活など具体的なお話がありました。中でも印象的だったのは、ハンセン病問題に対してなされた取組をそれだけに終わらせないで、他の人権問題(障害者問題やLGBT問題など)の解決につなげてほしいという意見でした。また全国各地の療養施設の中では入所者の高齢化が進んできており、将来の在り方について遠からず考えなければならない時期が来るということでした。

編集後記

人権・同和教育部では、今回河北会館の識字教室に参加しました。愛媛県で識字教室をしているのは、宇和島市と西条市の河北会館のみです。

私たちは、識字教室や人権・同和教育部講座への参加を通して自分の中の人権意識を高めるようにしています。多くの保護者の方に「きらり」の発行を通して、「今の自分に何ができるのか?」と問いかける時間を持って頂けるとありがたいです。



関係保護者の皆さまへ

印刷したものは一太郎によります。

データには一太郎とワードの2つを入れています。

一太郎の方にはイラストを入れています。

よろしく申し上げます。

小松高校 永易 孝規